No.39

62.2.10 サキガケ

（第３種郵便物認可）

「ああ、くたびれた」

ジャリンコピラミッド世界大会

7外人も参加 苦闘100分、砂利の山

西仙北町の雄物川

河原の砂利をスコップ一丁で積み上げて高さを競う「第二回ジャリンコピラミッド世界大会」が九日、仙北郡西仙北町の雄物川で行われた。

会場の国道13号線暁橋下は、例年なら中州まで車で行ける河原だが、今年は長梅雨で水量が多く、ほとんど水面下に隠れてしまうほど。それでも大会は強行され、世界五カ国からの留学生や技術研修生七人を含む十八人が、ひざまで水につかりながら流れの速い浅瀬で百分間にわたって悪戦苦闘した。

この大会は「自然にカエル、生活をカエル」を合言葉にユニークな活動を続けている同町のミニ独立国「秋田カエル村」が企画。昨年夏の第一回大会には、日本を旅行中のアメリカ人や台湾人なども参加し、炎天下で汗を流した。

ことしも、スリランカやマレーシアから秋田大学に留学している学生三人や、七月から本県に技術研修に来ているアフリカ諸国の研修生四人のほか、十七歳の高校生から五十八歳までの県人十一人が参加した。

合図とともにスコップ片手に陣地探し。浅瀬とはいっても、水の流れは結構速い。せっかく積み上げた砂利が流れにすくわれ、陣地を移す選手も。土台が水面上に出るまでがひと苦労。

しのぎやすい日和で、水につかっての競技とはいえ、選手の顔からは次第に大粒の汗が落ちる。立てたスコップに寄りかかって小休止しながらの選手や、わずかに残った中州にどっかと腰を下ろして本格的に休む選手と、ペースもさまざま。

ひざまで水につかりながら砂利を積み上げる選手たち

東京からの参加者が優勝した昨年とは違い、ことしは地元勢が圧倒的強さを発揮。西仙北町刈和野、小野町の佐々木茂さん(四九)が一四八分で優勝し、サマーファラオの称号と賞金十万円を獲得。二位にはわずか一分差で南秋田郡飯田川町、佐々木茂さん(三三)。スノー大会、なわない大会と通算五度目の挑戦の神岡町神宮寺、岩根喜治郎さん(四七)は「やっぱり若い者にはかなわない」と言いながらも、三位と健闘した。

62.8/10 アキガケ

話の力セット

砂利積みに悪戦苦闘

仙北

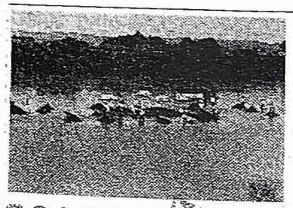
ミニ独立国・秋田カエル村主催の「第二回ジャリンコピラミッド世界大会」が九日、仙北郡西仙北町刈和野の雄物川河原で開かれた。河原といっても、雨続きによる増水で今年の会場は川の中。選手たちは流れと戦いながらスコップで川底の砂利をすくいあげ、ピラミッドづくりに挑んだ＝写真。

参加者は県内に来ている外国人留学生・技術研修生七人を含む十八人。いずれも、高校生から五十八歳までの男性で、競技時間は百分。せっかく積んだ砂利も崩れたり流されたりで四苦八苦だったが、会員が最後まで「高さ」に挑戦。川の中に三角形の砂利山が並んだ。計測の結果、地元の小松敏さん(四九)が高さ一四八㌢で一位、賞金十万円を手にした。

62.8.10 ヨミウリ

おばこ調

○…西仙北町の町おこし集団、秋田カエル村の「ジャリンコピラミッド大会」が九日、同町刈和野の雄物川河原で行われた＝写真＝。



○…〝世界大会〟と銘打った二回目のイベントで、秋田大学の留学生や秋田市などへ技術研修に来ている外人七人を含む十八人が参加し、スコップ一丁を頼りに、砂利で築くピラミッドの高さを競いあった。川の流れで、手足を冷やしながら大奮闘だった。

○…結果は一・四八㍍を積み上げた地元の西仙北町刈和野、小松敏さん(四九)が優勝し、賞金十万円を獲得。二位は神岡町の岩根喜治郎さん(四七)、三位は飯田川町の佐々木茂さん(三三)で、カエル村〝特産〟のみそ一年分などのビッグな賞品を手にした。